

第3章

貿易関係より見る韓国機械産業の競争力

－対日・対中を中心として－

服部民夫

要約：

韓国の機械工業は対日・対中輸出において 1990 年代以降大きな伸びを示している。その過程で三国間の貿易関係は機械類の交換関係に集中してきた。ことに韓国の対中輸出は企業の直接投資の進展に伴い急増し、しかも集中度を高めてきた。しかし、自給度の顕著な改善は見られない。競争力は強化されつつあるが、まだ十分に強化されたとはいえない。

キーワード：機械類貿易、競争力、輸出集中度、機械自給度、対中投資

はじめに

1997年の経済危機から回復し、韓国機械工業製品がその競争力を強化している。米国や欧州における自動車の販売拡大や半導体、液晶などにおける電子産業の大きな世界シェアなど、韓国商品の強い競争力がマーケットを席卷していると言われている⁽¹⁾。一方では韓国の産業資源部は韓国が強い競争力を持つといわれる電子製品分野でもその製品の多くの部分品が輸入品であることに警鐘を鳴らし、その国産化に努力する必要性を論じている（『日本経済新聞』2006年2月6日）。韓国の機械産業の競争力はいかなるものなのか。この疑問に答えるために工業製品の貿易関係からそれを検証しようというのが

本章の課題である。

韓国を含む後発の工業国の工業化パターンについて筆者は「組立型工業化」論という仮説を従来から主張してきた。本章のロジックの背景としてこの論議を利用するが、この仮説に対する批判もある。それは主として電子工業に関する研究者からものだが、本章では主として機械工業を取り上げて貿易関係を通して議論することとしたい。具体的には日韓・日中に関しては日本関税協会の『外国貿易概況』及び貿易統計の HS84（原子炉、ボイラー及び機械類並びにこれらの部分品）を中心として議論を展開するが、必要に応じて HS85（電気危機及びその部分品並びに録音機、音声再生機並びにテレビジョンの映像及び音声の記録用又は再生用の機器並びにこれらの部分品及び付属品）をも検討の対象とする。韓中に関しては韓国関税庁の『貿易統計年報』を資料とする。

第 1 節 「組立型工業化論」再論

分析を始める前に、本稿の理論的バックグラウンドをなす「組立型工業化」論に関して簡単に纏めておきたい。

このロジックは 20 年前に筆者が日韓貿易における韓国側の大幅赤字の継続を日韓の産業構造の違いとして説明するために案出したものである。その基本的なポイントは韓国が労働集約的な組立産業（縫製や雑貨、あるいは家電製品や電子部品）から工業化を開始した際に、その設備機械や部分品を主として日本から輸入しそれを組み立てて欧米に輸出する、というパターンを選択した（あるいは選択せざるを得なかった）ことから生じたとし、また、工業化の過程で発展した NC 工作機械などの自動化機械を活用することで、急速な生産拡大を可能とした、というところにある。しかし、急速な生産拡大と輸出の拡大は他方で設備機械や部分品の輸入拡大を結果し、そのことが韓国の対日貿易赤字が持続する原因であるところの議論は主張した（服部編

[1987] 服部 [2001] [2003] [2007] など)。

1987年に提出されたこの議論は、「民主化」(1987年)以降の賃金の上昇とそれに対応した経営側の「省人化」投資によって一層妥当することになった。もちろんこの間に自動化機械の高度化も急速であり、上のような経営の判断を可能とした。また、韓国の工業がこの間に大規模な経営を前提とする電子工業や自動車産業、あるいは造船産業などに資源を集中したこともこの傾向に拍車をかけた。1997年の経済危機において機械類輸入が減少し、国産機械への代替が進むような兆候も見られたが、後述するように、その後の推移はその傾向が順調に進展した、とは見られない。筆者は、韓国は基本的には現在も「組立型工業化」パターン上を進んでいると考えている。

もちろんこの議論に対する批判は成立する。例えば、韓国の半導体産業を詳細に分析している吉岡 [2006] は三星の半導体開発能力が蓄積してきたことによって「組立型」を脱皮したと主張した。この議論には二つの方向から反批判が可能である。一つは彼女の議論が三星という限られた企業、あるいは半導体産業という限られた範囲の議論であって、韓国の工業という全体を見たものではない、というものであり、いま一つは先に引用した『日本経済新聞』の記事に見られるような国産化率の低さ、それに設備機械の輸入依存度の高さである。意図的にそうしている、という議論も展開可能だが、それだけでは説明しきれない。第二の批判は著者の議論が極端に単純化されたものであって、例えば韓国において加工型の部品産業があたかも存在しないかの印象を与え、韓国からの機械類や部品類の輸入の増大が説明できず、韓国工業の競争力強化を過小評価している、という安倍誠の疑義である⁽²⁾。これにも反論は可能である。筆者の議論が単純化されたものであるという点はある面あっているが、その批判は逆に日本においては組立型産業が存在しない、と言っているということのネガである。しかしそのようなことはない。日本には組立型産業も加工型産業も存在していることは周知である。ここでの議論は日本の工業が加工型の強さに特徴があり、韓国の場合には組立型にその構造が偏っていることを示しているに過ぎないからである。また、韓国

からの部品等の輸入が拡大していることは行論で明らかにするが、その部品もまた自動化された設備機械で生産されるものであるとすれば、それは統計上では部品に類別されるが、その生産工程においては組立型産業と同様に「技術・技能節約型」である可能性は少なくない。輸入品についての精査が必要である。

より積極的に、筆者はこの「組立型工業化」パターンは自動化された設備機械が急速に発展し、それを導入することによって商品レベルの大量生産と高度化が同時に可能になったという条件、加えて設備機械を導入するに際して必要な資金が比較的自由に取り入れられるという国際的な金融条件の緩和、という環境変化を能動的に取り入れた新たな後発工業化のモデルとなりうる可能性を持つと考えている。また、市場の国際化と競争の激化が後発の工業国にそれを不可避なものとする、とも考えてもいるのである⁽³⁾。

第2節 日韓中の工業品貿易の展開

韓国工業製品の競争力を議論する前提として、この三国の間における貿易関係の進展を確認しておこう。

表1は1990年から2004年までのこの三国間の貿易関係の急進展を見たものである。まず韓国と中国の関係を見れば、最初に指摘されるべきはその拡大速度の速さである。韓国からの対中輸出はこの15年間で金額において85倍、輸入は13倍に拡大した。具体的には1990年に5.85億ドルであった対中輸出が2004年には497.63億ドルに増加した。また輸入は22.68億ドルから295.85倍に増加し、韓中貿易は1993年以降韓国の黒字が持続している。その黒字幅は2004年には201.78億ドルという大幅なものである。貿易収支が黒字化した1993年は韓中国交正常化の翌年であり、韓国企業の対中直接投資が本格化した時期と符合している。この点については後に触れることになる。

表1 日中韓の貿易関係(1990-2004)

(百万ドル)

	韓国⇒中国			韓国⇒日本			日本⇒中国		
	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支
1990	585	2,268	-1,683	12,638	18,574	-5,936	6,130	12,054	-5,924
91	1,003	3,441	-2,438	12,356	21,120	-8,764	8,593	14,216	-5,623
92	2,654	3,725	-1,071	11,599	19,458	-7,859	11,949	16,953	-5,004
93	5,151	3,929	1,222	11,564	20,016	-8,452	17,273	20,565	-3,292
94	6,203	5,463	740	13,523	25,390	-11,867	18,681	27,566	-8,885
95	9,144	7,401	1,743	17,049	32,606	-15,557	21,931	35,922	-13,991
96	11,377	8,539	2,838	15,767	31,449	-15,682	21,965	40,565	-18,600
97	13,572	9,975	3,597	14,771	27,836	-13,065	21,841	42,023	-20,182
98	11,944	6,484	5,460	12,238	16,840	-4,602	19,990	36,947	-16,957
99	13,685	8,867	4,818	15,862	24,142	-8,280	23,336	42,880	-19,545
2000	18,455	12,799	5,656	20,466	31,828	-11,362	30,428	55,303	-24,876
1	18,190	13,302	4,888	16,506	26,633	-10,127	31,091	58,105	-27,014
2	23,754	17,400	6,354	15,143	29,856	-14,713	39,866	61,692	-21,826
3	35,110	21,909	13,201	17,276	36,313	-19,037	57,219	75,193	-17,974
4	49,763	29,585	20,178	21,701	46,144	-24,443	73,818	94,227	-20,409
	85.1倍	13倍		1.7倍	2.5倍		12倍	7.8倍	

(注)：『外国貿易概況』では、96年版よりドル表示が無くなったため、ジェトロ資料によりドルに換算した。

：1999年以降は「貿易統計」を基としたジェトロ日本経済課による換算。

(http://www.jetro.go.jp/jpn/stats/trade/)

(出所)「韓国⇒中国」「韓国⇒日本」は韓国関税庁『貿易統計年報』各年版および韓国統計庁『主要経済指標各年版』；「日本⇒中国」は日本大蔵省(財務省)『外国貿易概況』各年版。

次に日中貿易について見ておこう。韓中貿易ほどには急速な拡大を記録しなかったが、日中貿易も急激に拡大した。同じ15年間に日本の対中輸出は1990年の61.3億ドルから2004年には738.18億ドルに増加した。12倍である。輸入は同じ期間に120.54億ドルから942.27億ドルへと拡大した。7.8倍である。貿易収支は一貫して日本の赤字である。2001年にはそれは270.14億ドルにも達したが、その後は金額的にも相対的にも減少傾向にある。

日韓の貿易関係は1990年の段階で既にある程度成熟しており、韓中、日中ほどの急拡大は無かったが、それでも韓国から日本への輸出は1990年の126.38億ドルから2004年には210.01億ドルと1.7倍になり、対日輸入は185.74億ドルから461.44億ドルへと2.5倍になった。韓国の対日赤字は経済危機の影響を強く受けた1998、99両年には100億ドル以下であったが、景気の回復と共に赤字幅は再び拡大している。

第二に指摘されるべきことは、この三国の貿易収支は韓中における韓国の黒字、日韓における韓国の赤字、日中における日本の赤字が相殺しあっており、2004年にはほとんど均衡した、という事実である。これは北東アジアに

おける工業構造の布置という点で重要な意味をもっているように思われる。この重要性は行論で明らかにされるであろう。

次にこの三国の間でどのような品目が交換されているのかを概観しておこう。表2がそれである。ここではHS2桁水準で見ることとする⁽⁴⁾(HS2桁コードは別表1を参照)。表2-1は韓国の対中輸出入の品目別ランキングである。1992年の韓国の対中輸出でもっとも金額的に大きかったのはHS72(鉄鋼)であった。次いでHS39(プラスチックとその製品)、HS85(電気機器とその部分品)、HS55(人造ステイプル・ファイバー)そしてHS84(原子炉・ボイラー・機械類とその部分品)であった。この段階で既に韓国の対中輸出は重化学工業製品が主要なものであった。1995年になるとHS72は順位を落とし、HS39、HS84、HS85、HS29(有機化学品)そしてHS41(原皮とレザー)が上位を占めた。これは韓国企業の対中直接投資と関係すると思われる。2000年になるとHS85とHS84が1位、2位となり、次いでHS39、HS29そしてHS27(鉱物性燃料と同生産物)となり、2004年は再び5位にHS72が復帰する。一方、輸入を見ると、1992年の場合、HS10(穀物)、HS27、HS55、HS25(塩・土・セメント)そしてHS50(シルク)であった。この段階では対中輸入は一次産品や軽工業品が主要なものであった。1995年にはHS72、HS27、HS55、HS85そしてHS29となり、この3年間で輸入品は急速な変化を記録した。2000年になるとHS85が1位となり、次いでHS27、HS84、HS14(食物加工品)、HS72となり、2004年はHS85、HS84、HS72、HS27そして5位にHS62(衣料と同附属品<メリヤスを除く>)が登場した。韓国は衣料などの輸出国であったが、輸入国に転じたのである。いま一つ注目しておくべきことは2004年には輸出入共にHS90(光学機器・検査機器等精密機器・部分品)がベストテンに登場していることである。韓中の貿易関係は急速に工業製品の交換関係に変化し、輸入に関しては繊維製品輸入が拡大したのである。

日中の関係を見ると(表2-2)、日本の対中輸出は1990年以降、一貫してHS85とHS84が1位、2位を占めていた。そして3位は2000年までは

表2-1 韓国の対中輸出入ランキングの推移

輸出

	1992	1995	2000	2004
1	HS72	HS39	HS85	HS85
2	39	84	84	84
3	85	85	39	29
4	55	29	29	39
5	84	41	27	72
6	29	55	72	27
7	41	72	20	90
8	54	27	41	87
9	48	54	54	74
10	27	48	55	54

輸入

	1992	1995	2000	2004
1	10	72	85	85
2	27	27	27	84
3	55	55	84	72
4	25	85	14	27
5	50	29	72	62
6	72	62	10	76
7	52	52	62	3
8	85	50	3	61
9	23	28	55	90
10	29	84	90	29

(出所) (韓国) 関税庁『貿易統計年報』各年版。

表2-2 日本の対中輸出入ランキングの推移

輸出

	1990	1995	2000	2004
1	85	84	85	85
2	84	85	84	84
3	72	72	72	90
4	73	87	90	72
5	29	29	29	29
6	39	90	39	87
7	87	39	87	39
8	55	55	0	0
9	90	54	54	73
10	54	73	55	54

輸入

	1990	1995	2000	2004
1	27	62	85	85
2	62	61	62	84
3	61	85	61	62
4	3	27	84	61
5	85	64	27	27
6	52	42	64	90
7	72	16	95	95
8	12	72	16	94
9	25	84	42	64
10	7	3	90	16

(出所) 日本関税協会『日本貿易統計月表』各年12月号；財務省貿易統計

(<http://www.customs.go.jp/toukei/info/>)。

表2-3 日本の対韓輸出入ランキングの推移

輸出

	1990	1995	2000	2004
1	84	84	85	85
2	85	85	84	84
3	72	90	90	72
4	29	72	72	90
5	90	29	29	29
6	39	39	39	39
7	27	27	0	0
8	87	87	38	38
9	73	38	87	87
10	0	73	74	70

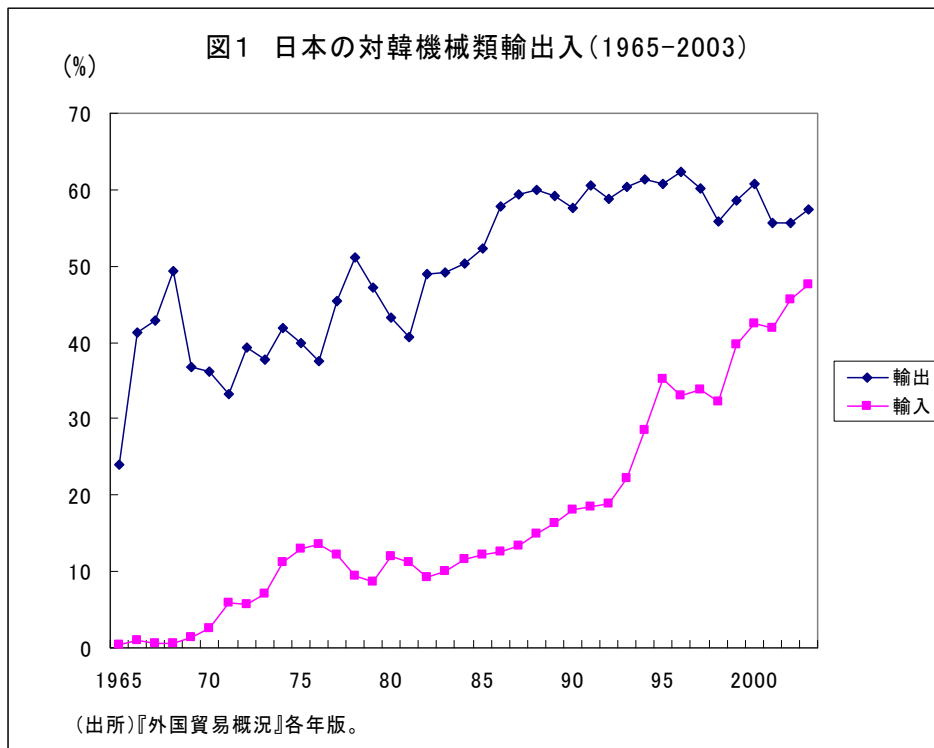
輸入

	1990	1995	2000	2004
1	85	85	85	85
2	72	72	27	84
3	61	61	84	27
4	62	84	72	72
5	3	27	3	39
6	42	3	39	29
7	27	62	61	3
8	84	42	90	0
9	73	73	73	73
10	68	64	29	90

(出所) 表2-2と同じ。

HS72、2004年にはHS90が3位となった。その他を見るとHS29が5位で一貫しており、5位までにはHS73（鉄鋼製品、1992年）、HS87（輸送機器、1987年）が登場している。日本の対中輸出はこの間、重化学工業品で一貫していたといえる。対中輸入は輸出と比べて大きな変化があった。1990年の対中輸入は1位がHS27、2位がHS62、3位はHS61（衣料と同附属品<メリヤス>）、HS3（魚介類）、5位にHS85が登場した。1995年にはHS62とHS61が1位、2位となり、1990年には5位であったHS85が3位に躍進、HS84も9位に登場した。2000年になるとHS85がトップとなり、繊維製品が2、3位を占め、HS84が4位となった。この年の対中輸入は機械類と繊維類が主要なものであったといえることができる。また、HS90が10位に登場した。2004年にはHS85、HS84が1位、2位を占めるようになり、次いで繊維製品、そしてHS90が6位にまで上昇した。日中間の貿易関係もまた機械類の輸出入がもっとも重要なものとなり、韓中のそれと類似してきた。相違点は日中の場合は日本の繊維輸入が大きなこと、またHS90の輸出入が相対的に上位にあることである。

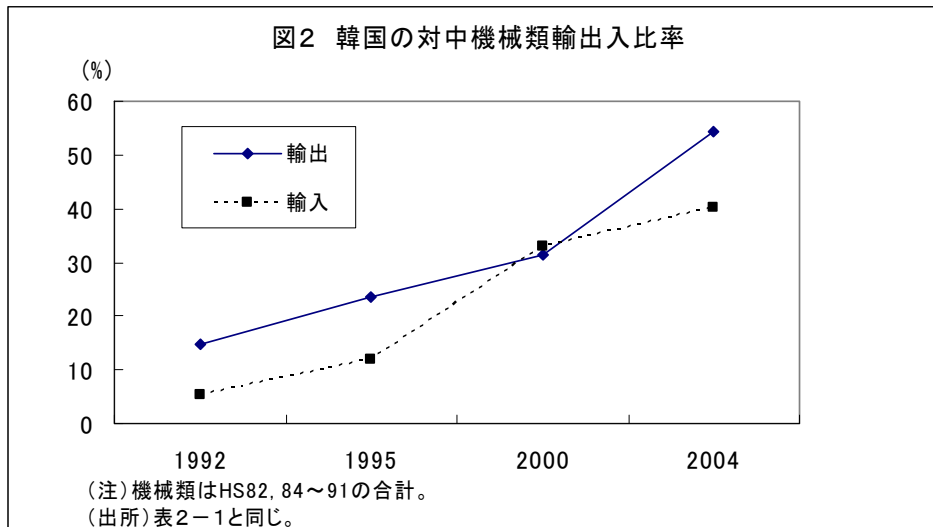
日韓間を見ると（表2-3）、日本の対韓輸出はこの間では大きな変化はなかった。HS84、HS85、HS90、HS72、HS29が一貫して5位以内に登場し、HS84とHS85が1位、2位を占めた。日韓間の貿易関係はこの期間以前から安定した関係となっていたと思われる。対韓輸入については大きな変化があった。同期間中にHS85が一貫して1位を占めていたが、注目すべきはHS84の進出である。1990年には8位であったが、1995年には4位、2000年には3位、そして2004年にはHS85に次ぐ2位となった。一方、繊維製品は1990年には3位、4位を占めていたが、2004年にはトップ・テンから脱落した。中国からの輸入によって代替されたものと考えられる（服部[2007]）。先の安倍誠の批判にあったように、HS84の対韓輸入は拡大している。これが韓国機械工業の競争力上昇を意味するのかが検討課題である。



第3節 日韓、韓中の機械類貿易

1. 日韓・韓中の機械類貿易関係

日韓貿易における機械類貿易の比重をまず見ておこう。図1は『外国貿易概況』によってみた対韓輸出入に占める機械類の比率である⁽⁵⁾。機械類の輸出比率は1965年から1980年代中盤にかけて傾向的に上昇しておよそ60%に達し、その後10年間はその水準が継続した。しかし、1997年の経済危機によってその比率は低下し、2000年に1度その水準を回復するが、その後は50%台半ばに低下した。この傾向が韓国機械産業のレベルアップによるものか否かはここでは明らかではない。後に自給率の変化などで検討しよう。



他方、輸入に関してはその比率は顕著に上昇している。機械類輸入比率⁽⁶⁾は1990年代前半までは緩やかに上昇して20%程度に達するが、その後は急上昇し、2003年には50%に近くになった。つまり、同資料に拠れば、日韓の貿易は機械類を主として交易する形態となった。この比率の上昇は韓国機械工業のレベルアップを明らかに示すものであろう。

韓中貿易を次に検討しよう。上のような簡便な資料が無いために、便宜上、HS82、HS84 から HS91 までを機械類とし、その合計を使用することとする⁽⁷⁾。図2を見れば韓中間においても機械類の貿易は急速に増加してきている。1992年の段階ではその比率は非常に低いですが、2000年には輸出入共に30%を超え、2004年には輸出において50%半ば、輸入でも40%に達した。日韓間よりはまだ若干少ないが韓中間の構造はかなり日韓のそれと急速に類似してきた。その中でも輸出入が急増したのはHS84、HS85、HS87およびHS90である。この急増は韓国企業の活発な対中進出が影響を及ぼしている。

以上のように近年の日韓、韓中の貿易関係はその総量の40ないし60%が機械類の貿易に占められるようになったのである。では、日韓、韓中の機械類貿易はどの部分で増加し、それを競争力の強化と判断できるのか否かをも

もう少し詳しく見よう。以下の分析ではHS84に限ることにする。分析は4桁水準を基本とし、必要に応じてより細かい分析をおこなう。

2. HS84 の日韓貿易

本章では韓国機械工業の競争力を検討するのが目的であるから、日本の対韓輸入から分析を始める。表3は1990年から2005年までの対韓HS84輸入のうち、4桁水準で10億円以上の品目を示したものである(2005年基準)。

表3 日本の対韓HS84輸入

	(百万円)							
	1990	1995	2000	2001	2002	2003	2004	2005
8473	20,655	31,495	64,119	64,065	91,982	82,253	145,058	101,988
8471	3,528	15,515	200,120	147,966	99,381	99,133	62,003	60,208
8480	6,146	4,584	17,084	21,176	21,832	20,022	30,283	41,706
8479	1,398	2,269	7,560	7,745	8,868	8,813	14,052	20,756
8431	2,958	4,028	4,972	5,917	5,878	7,711	11,423	16,008
8466	3,923	2,092	3,752	4,482	3,532	4,417	7,088	13,163
8483	2,212	2,321	3,938	4,247	4,595	6,904	8,932	12,108
8409	2,224	2,466	3,383	4,546	5,009	5,512	8,652	10,901
8481	3,085	2,260	3,807	4,849	6,093	6,574	7,906	8,489
8413	1,435	964	2,485	2,914	3,729	3,981	5,250	6,961
8419	451	877	1,919	3,403	4,691	4,024	5,078	6,846
8477	803	622	2,099	2,890	2,651	3,862	5,981	5,454
8414	1,557	1,605	3,041	3,041	3,265	3,582	4,316	5,214
8421	377	1,133	1,206	1,637	2,188	4,385	4,195	4,418
8482	224	406	813	1,349	1,703	2,149	3,093	3,717
8470	45	289	485	404	414	333	1,718	3,591
8455	486	1,182	1,190	1,375	1,026	1,810	2,826	3,574
8417	449	388	443	758	908	354	946	3,382
8418	3,361	6,019	4,936	5,559	5,153	4,552	3,872	3,253
8428	1,201	1,100	1,156	1,575	1,608	1,400	2,203	2,677
8456	18	13	450	474	679	337	2,257	2,337
8450	276	622	3,509	5,044	4,758	4,374	3,275	2,183
8462	141	137	362	655	374	699	630	2,106
8412	371	507	548	805	872	1,066	1,451	1,991
8406	71	968	393	695	511	349	746	1,763
8474	748	882	1,312	1,356	1,197	1,126	1,606	1,616
8402	5	139	93	290	180	414	282	1,437
8424	471	281	579	948	1,134	2,082	1,234	1,285
8441	466	542	702	726	500	633	757	1,209
8415	136	495	1,910	1,733	1,475	1,540	2,381	1,093
8484	10	28	219	262	472	657	988	1,076
合計	74,283	94,855	347,722	313,353	298,352	300,964	366,739	370,157

(出所)表2-2と同じ。

まず輸入総額から見ると、1990/2005年の間に輸入金額は5.0倍に増加した。しかし、2000年代に入って以降の輸入金額は停滞気味である。2000年に3477億円を記録した輸入は2003年にかけて減少し、2004年にいたって2000年の水準を超えたが、2005年は対前年比1%の増加にとどまった。2005年に10億円以上が輸入された品目数は31だが、これを100億円以上とすればわずかに8品目であり、輸入が上位に集中していることが明らかである。最も多いHS8473（自動データ処理機及びそれを構成するユニット、光学式読み取り機等）は2005年のHS84輸入全体の27.6%を占め、第2位の8471（HS8469から8472（タイプライター、計算機、自動データ処理機、その他事務機器等）の部分品・付属品）は16.3%、第3位の8480（鋳物用の型等）は11.3%を占めており、上位3品目で55.2%を占める。第4位が8479（その他機械類）で5.6%、8431（HS8425から8430（ホイスト、クレーン、昇降機、ブルドーザー、くい打ち機など）の部分品）が5位で4.3%を占めた（以下、HS4桁コード品目の詳細は別表2を参照）。

順位変動を見ると、8473と8471は興味深い動きを示している。1990年代には8473が優位にあったが、2000年から2003年の4年間はむしろ8471が優位にあり、2004年から再び8473が優位となった。注記したように、このことは2000年代の初めは完成品あるいはそれに近いユニットが多く輸入され、この時期の前後は部分品が輸入されたことを示している。しかし、この両品目は2004/2005年には減少しており、ことに8473の減少が著しい。注目すべきことは金額的にはまだたいしたものではないが8480、8479、8431、8466、8483、8409などが継続的に伸びていることである。これらはその他機械類および部分品に類するものであり、韓国の部品工業が徐々に力を付けてきていることを示すものかもしれない。

次に日本のHS84対韓輸出を見ておこう。表4がそれである。まず総額を見ると、2005年で9286億円であり、その増加率は意外に低い。1990年と比較して1.3倍に過ぎない。同表に経済危機の時期のデータが欠けているが、2000年、2001年が増加しているのはその影響が残ったからであろう。表3

表4 日本の対韓HS84輸出

	(百万円)							
	1990	1995	2000	2001	2002	2003	2004	2005
合計	715,803	790,782	655,122	527,934	627,919	737,649	906,787	928,642
8479	63,920	140,024	178,910	108,707	120,928	185,734	316,523	303,955
8419	32,095	64,165	25,344	22,211	20,529	29,964	42,023	41,911
8413	33,065	30,419	20,843	21,958	24,647	34,960	37,206	35,458
8481	29,705	33,025	27,393	22,966	28,679	28,259	35,656	34,549
8473	25,065	25,773	36,445	36,677	59,072	38,706	31,815	34,014
8456	7,507	27,840	28,176	14,662	19,657	30,376	34,509	30,851
8414	26,676	19,877	19,325	18,394	22,199	20,891	27,801	30,148
8482	19,445	24,687	19,811	17,242	17,041	20,581	22,251	25,052
8471	41,498	31,954	35,683	31,241	42,434	32,076	27,342	23,516
8483	24,928	27,707	19,771	18,830	18,368	18,537	20,802	22,271
8466	11,201	12,069	7,505	7,177	6,441	10,075	12,607	20,450
8409	17,802	17,833	14,000	18,819	24,249	15,965	19,755	20,320
8406	4,073	6,197	4,795	5,849	13,799	12,185	14,204	17,798
8477	15,189	16,473	13,795	11,316	14,101	16,909	19,057	16,104
8443	22,486	26,121	22,039	14,086	27,125	17,518	15,410	15,756
8457	13,075	6,926	7,384	7,337	4,627	27,290	10,758	14,537
8464	2,144	4,701	6,653	4,954	4,030	7,192	12,465	14,492
8428	16,474	18,750	7,360	4,280	10,062	10,731	12,099	13,398
8462	15,938	19,371	8,873	5,621	7,709	11,531	9,052	12,996
8402	1,247	3,291	2,298	6,891	8,168	9,381	9,236	11,548
8460	13,590	13,663	8,538	7,909	6,156	12,968	9,706	10,625
8408	8,855	7,422	7,298	5,822	5,102	5,684	8,235	10,413
8421	12,967	14,692	2,369	6,795	8,264	9,931	10,251	10,356
8455	11,166	13,119	5,800	8,865	5,745	6,782	5,867	9,889
8458	6,222	3,060	3,888	3,186	3,695	5,327	6,418	8,682
8412	8,961	120,707	6,631	6,109	6,737	7,366	7,780	8,252
8415	2,033	1,419	700	1,433	2,563	4,942	5,842	7,979
8418	7,449	4,147	1,887	1,429	4,762	7,338	7,032	7,405
8459	13,897	6,118	4,433	3,330	3,287	6,153	5,511	6,902
8465	2,645	3,432	7,713	3,147	3,277	5,060	8,316	6,527
8431	9,584	9,456	2,477	2,670	2,394	3,923	8,219	6,224
8432	1,031	493	269	1,082	1,773	2,138	3,867	5,165
8485	2,044	3,329	3,655	2,644	3,386	3,954	4,020	5,139
8480	8,200	8,101	3,733	3,720	4,212	3,897	5,390	4,990
8467	3,556	4,359	3,310	2,889	5,029	4,809	4,808	4,957
8475	1,819	879	2,114	4,191	858	1,318	1,238	4,890
8429	4,131	189	1,392	965	2,681	4,658	4,791	4,815
8454	3,435	2,847	3,008	3,310	2,693	4,280	3,417	4,211
8426	9,517	10,814	1,948	3,372	3,177	5,029	5,012	4,175
8433	9,146	1,996	1,870	1,271	1,287	2,011	3,200	4,155
8407	2,078	1,276	3,895	3,288	2,997	3,254	3,871	3,977
8461	7,221	3,394	2,836	3,054	2,642	3,470	3,647	3,816
8417	3,569	2,601	2,594	3,722	1,834	764	4,133	3,780
8424	3,361	4,964	2,830	2,195	2,268	2,204	2,649	3,329
8422	3,057	3,307	3,206	2,571	3,255	2,971	4,056	2,731
8484	819	1,095	1,237	1,477	1,768	1,960	2,352	2,661
8430	4,635	5,570	1,757	1,046	2,515	2,563	2,622	2,478
8427	2,463	213	281	496	1,205	1,242	1,273	2,170
8447	12,064	6,123	7,508	7,036	5,819	3,113	1,210	2,139
8438	4,648	2,772	1,512	1,297	2,068	1,838	1,449	2,081
8463	2,067	3,297	1,678	1,317	1,405	1,282	1,362	1,887
8472	3,714	7,089	5,074	3,145	3,616	3,221	2,871	1,881
8439	4,588	7,836	1,723	1,805	1,605	1,900	1,642	1,831
8474	5,637	1,945	1,181	1,076	1,232	2,260	1,844	1,828
8452	9,533	3,396	4,168	2,707	2,579	2,077	1,555	1,722
8411	28	135	4,464	1,119	961	1,144	3,404	1,432
8404	862	468	648	664	683	451	1,079	1,399
8425	1,778	1,213	668	584	1,092	766	862	1,284
8448	7,477	6,025	4,069	3,019	2,808	3,055	1,995	1,270
8441	4,443	2,461	1,948	1,472	1,397	1,456	987	1,251
8440	1,262	751	847	1,025	1,475	1,106	964	1,092
8416	1,853	999	766	917	675	986	638	1,050
8451	4,036	1,884	992	512	1,014	459	634	1,042

(出所)表2-2と同じ。

と同様、4桁で10億円以上のものを表示したが、63品目である。100億円以上は23品目だが、表で明らかなように8479が突出して大きい。これだけで32.7%である。順位は比較的安定しているが、8456（マシニングセンター等）が期間中に4.1倍となり、8406（蒸気タービン）が4.4倍、8464（鉱物性材料加工機）が6.8倍、8402（ボイラー）が9.3倍となったのが目立つ増加であり、逆に8471が0.6倍、8443（印刷機）が0.7倍となったのが目立つ減少である。

1990年から2005年の期間中に対韓輸入は5倍になり、対韓輸出は1.3倍にしかならなかったのだから、数字的に見れば韓国の機械産業は発展し、その競争力も強化されている、と考えるべきであろう。しかし、対韓輸入が金額的に大きく増加したのは2000年までであり、それ以降は停滞していることに留意しておくとともに、基幹的な部分品が着実に増加していることにも注目しておきたい。

比較のために、2005年における日本の対韓輸出入の20位までを整理しておく（表5）。表5-1が輸出入を金額順に並べたものであり、網がかかっているものが輸出20位までの中で輸入も20位以内に登場しているものである。また、表5-2は対韓輸出のランキング中に合わせて輸入を並べたものである。網が欠けている項目は輸入が輸出を上回っているものであり、上位20位までの中に2品目が該当する。これによれば、HS4桁水準で見れば、韓国との間で輸出入されている品目は必ずしも一致しているわけではない。対韓輸入1位の8473は対韓輸出では5位である。輸入2位の8471は輸出8位であり、輸入3位の8480は輸出では21位以下である。輸入4位の8479が輸出1位であり、輸入5位の8431はやはり輸出21位以下である。輸出入は補完的だと言えるかもしれない。5-2表は日本の輸出順位を基準として、輸出入を比較したものである。8473と8471は対韓輸入が輸出を大きく上回っている。逆に8479、8419、8481、8456、8414、8482などは輸出が輸入を大きく上回っていることが分かる。総じて、韓国は日本に対して「自動処理機械およびその部分品」の分野で強い競争力を持ち、日本は「その他の機

表5 日本の対韓HS84輸出入(2005年、20位まで)

表5-1

順位	輸出	日本順位	輸入
1	8479	5	8473
2	8419	8	8471
3	8413		8480
4	8481	1	8479
5	8473		8431
6	8456	11	8466
7	8414	10	8483
8	8482	12	8409
9	8471	4	8481
10	8483	3	8413
11	8466	2	8419
12	8409	14	8477
13	8406	7	8414
14	8477		8421
15	8443	8	8482
16	8457		8470
17	8464		8455
18	8428		8417
19	8462		8418
20	8402	18	8428
合計	928,642		370,157

表5-2

(百万円)

順位	HS	輸出	輸入
1	8479	303,955	20,756
2	8419	41,911	6,846
3	8413	35,458	6,961
4	8481	34,549	8,489
5	8473	34,014	101,988
6	8456	30,851	2,337
7	8414	30,148	5,214
8	8482	25,052	3,717
9	8471	23,516	60,208
10	8483	22,271	12,108
11	8466	20,450	13,163
12	8409	20,320	10,901
13	8406	17,798	1,763
14	8477	16,104	5,454
15	8443	15,756	889
16	8457	14,537	189
17	8464	14,492	295
18	8428	13,398	2,677
19	8462	12,996	2,106
20	8402	11,548	1,437
合計		928,642	370,157

(出所)表2-2と同じ。

械類」や「ボイラー」あるいはベアリングや弁・コックなどの基幹部分品で競争力を持つ、と整理できよう⁽⁸⁾。

3. HS84 の韓中貿易

付論で述べるように、韓国企業の対中進出は1992年の国交正常化以降、急速に進展しており、それに伴って韓国の対中輸出は急速に拡大してきた(表1)。それを見たものが表6である。韓国の貿易統計は10桁であるため、2004年の10桁水準で1千万ドル以上の85品目を掲げてある。まず概観してみても韓国の対中輸出は時間とともに量的に拡大するだけでなく、その品目が多様化していることである。例えば2004年の上位85品目中30品目以上が1994年には輸出がゼロである。しかし、この間に一貫して上位を占めたのは8473、8471、8479、8414などであった。これに2000年から8429が加わ

表6 韓国の対中輸出(1994-2004年、10桁)

HSコード	2004年		2002年		2000年		1998年		1996年		1994年	
	対中輸出額	その比率	対中輸出額	その比率	対中輸出額	その比率	対中輸出額	その比率	対中輸出額	その比率	対中輸出額	その比率
8473-30-9000	3,086,559	50.6	873,932	20.5	324,868	6.5	60,607	1.2	89,936	22.2	41,850	12.2
8471-60-2023	1,852,053	27.4	687,780	17.3	5,156	0.3	55	0.1	0	0		
8479-89-9099	471,149	56.3	253,880	51.6	186,422	47.6	53,217	34.7	98,030	44.4	15,031	17.6
8473-30-4060	301,514	6.5	31,264	0.9	32,615	0.7	0	0	0	0		
8414-30-1000	233,789	41.0	146,075	38.6	61,838	16.4	39,590	11.8	21,516	6.2	11,030	6.2
8429-52-1020	209,710	16.8	144,604	24.5	60,920	12.7	0	0	0	0		
8471-70-2039	202,120	26.0	23,337	7.1	141	1.5						
8431-49-9000	149,873	35.1	99,490	42.7	57,170	30.9	29,097	29.4	61,639	40.2		
8480-71-9000	94,354	16.7	60,815	16.7	45,652	12.5	18,470	8.2				
8409-30-9090	91,966	59.1	21,109	52.9	490	3.1	1,221	3.1	208	1.9	34	0.2
8479-90-9090	79,913	24.4	47,359	30.2	83,998	46.3	19,391	26	50,738	34.9	2,817	5
8407-34-9000	73,528	59.8										
8479-89-2099	57,143	55.4	8,501	2.5	7,968	8.1	1,278	4.4				
8477-10-2000	54,169	42.4	22,111	27.5	10,066	19.9	7,403	16	15,298	32.3	4,153	9
8447-11-1000	51,206	86.4	28,873	83.8	35,003	86.3	8,481	44	22,200	52.6	10,039	30.6
8479-90-1010	50,150	42.2	3,151	7.6	666	2.1	181	0.7	126	0.4	14	0.1
8419-89-9000	45,308	22.4	7,976	9	2,836	4.3	4,002	9.5	3,838	14.5	18,372	36.2
8479-89-9050	44,713	47.4	21,858	28.7	11,995	18.6	1,811	5.4	8,495	23.8	2,233	10.3
8475-90-9000	42,946	72.7	1,659	39.8	2,293	17.5	4,228	38.6	43	1	42	9.4
8471-30-0000	42,162	8.5	55,120	5.2	6,623	1	58	...	14	0.2		
8415-90-0000	41,554	26.2	30,963	33.6	24,670	31.3	15,049	39.3	7,904	38	332	4.5
8408-10-3000	40,155	19.5	1,404	5.6	0	0	0	0	1,494	3.9	0	0
8471-70-2020	37,672	3.5	11,316	2	44,969	9.3	49	...	215	0.1		
8457-10-2000	36,503	55.7	4,549	12.7	2,103	7.6	0	0	0	0		
8471-70-2032	36,499	31.4	15,706	10.5	14,356	3						
8477-80-0000	35,174	54.3	18,061	53.8	7,060	33.4	8,540	34.8	10,522	33.8	3,870	32.5
8445-90-2000	34,970	98.0	20,160	92.2	19,658	86.5	211	10.3	6,501	73.9	8,848	76.6
8419-50-9000	33,825	22.5	844	0.8	9,282	9.1			0	0		
8457-10-1000	32,442	34.5	5,965	12.4	1,630	2.8	2,942	3.6	0	0		
8446-30-3090	31,993	77.1	19,920	65.7	1,009	21.5	747	13.4	6,023	100		
8479-89-9091	31,359	42.6	3,414	27.9	0	0	8,064	4	669	0.4	5,492	65.1
8450-90-0000	31,259	22.8	20,141	18.5	11,706	16.5	6,550	15.9	2,123	5.1	0	0
8458-11-0000	30,330	12.6	11,213	9.4	4,701	2.9	20,079	9.1	5,435	2.4	263	0.7
8447-90-2010	30,091	30.8	20,603	27.1	3,983	7.1	1,166	9.4	2,503	63.6	361	80.4
8406-90-9000	30,051	79.8	1,651	3.5	202	0.6	3,283	24.6	0	0	0	0
8431-41-9000	28,731	43.4	22,486	57.1	10,834	26.8	4,907	18.6	1,123	3.1	1	...
8479-89-2020	26,235	26.8										
8479-89-3010	26,128	16.7										
8481-80-1090	25,966	30.9	13,137	6.4	5,670	2.8	4,450	2.5	1,938	1.6	2,213	2.6
8479-40-0000	25,862	82.9	6,170	52.6	79	1.5	692	20.8	3,474	26.7	2,300	21.6
8477-51-0000	25,157	99.1	3,208	99.7	1,091	51.1	460	50.8	7,260	92.7	31	1.3
8480-79-0000	25,129	29.4	19,011	24.2	15,561	17	11,023	17.4	28,758	33.2	4,331	10.9
8444-00-9000	24,688	78.7							6,836	89.7	2,278	43.8
8471-60-2011	23,984	6.0	22,970	8.3	5,798	2.5	302	0.9	36	0.1		
8451-80-1000	23,751	78.2	25,582	88.8	9,505	63.5	3,424	48.4	3,053	43.4	1,548	23.8
8479-81-3000	22,217	76.2	13,243	71.2	8,443	44.1	1,301	24.4	10,212	69.1	3,911	37.9
8428-90-0000	21,144	33.8	6,630	33.1	2,332	9	2,517	15.9	50,391	65.8	540	2.3
8419-10-1030	20,895	2.5	3,322	0.9	457	0.3	306	0.2	378	0.4	161	0.2
8479-50-9000	20,737	59.7	2,629	34.3	1,569	22.5	154	4.6	171	1.6		
8431-49-1000	20,566	25.6	8,685	19.9	1,870	5	266	1.4	165	1.4		
8431-39-9000	20,513	40.1	11,467	35.3	20,254	44.7	14,354	44.2	0	0		
8451-80-2000	20,379	57.9	50,080	87.2	14,044	63.4	13,487	67.7	17,731	58.4	1,619	19.4
8479-89-3090	20,239	24.7	868	31.4	0	0	0	0	0	0		
8481-90-9000	19,379	17.3	7,194	9.9	5,146	9.2	3,091	10	1,131	4.2	242	0.8
8462-99-9000	19,273	61.8	5,317	36	2,550	16.3	1,424	6.9	7,822	43.1	1,116	31.3
8466-94-9000	18,906	48.1	4,491	22.6	692	6.5	1,470	9.7	0	0		
8439-99-0000	18,790	71.4										
8419-90-9090	16,402	26.9	2,401	8.8	6,301	13	617	8.4	344	2.2	2,641	24.5
8479-90-3090	16,283	34.4	5,993	20.7	3,194	9.5	216	0.9				
8428-33-2000	16,033	38.0	5,031	17.8	4,519	19.1	4,443	14	9,954	23.4	3,937	25.7
8485-90-9090	15,935	20.4	1,449	5	2,215	5.8	980	4.2	574	2	73	2.4
8483-10-9090	15,915	41.6	11,584	53.7	4,441	27.4	1,002	19.3	1,021	11.3	124	2.1
8464-20-9000	14,803	84.0	3,807	62.9	2,137	47	416	11.6	1,317	14.5	1,128	21.9
8482-10-0000	13,478	8.7	12,232	10.1	7,009	7.8	2,710	4	618	0.7	463	1
8452-29-9000	13,382	16.4	12,055	17	12,235	15.5	5,985	12.6	18,105	30	13,181	19.4
8466-93-9000	13,065	18.4	2,503	8	1,835	5.7	1,151	4.6	0	0		
8452-90-0000	12,961	56.5	3,914	24.3	2,053	10.8	1,295	11.4	4,094	26.4	2,535	25.3
8421-99-1000	12,615	93.5										
8419-39-9000	12,378	58.4	3,074	29.6	2,143	32.5	0	0	0	0		
8407-33-9000	12,279	19.4	778	1.6	0	0	0	0	0	0		
8409-99-9090	11,759	8.9	2,510	3.3	3,184	6.9	482	1.8	462	2.4	433	2.4
8437-10-9000	11,659	69.1										
8479-89-9010	11,565	31.2	6,963	39.5	4,367	32.8	5,383	38.3	9,394	69.4	4,247	61
8421-39-9090	11,519	38.6									1,595	48.6
8477-90-0000	11,519	23.1	4,410	17.9	4,684	27.2	1,354	13.4	4,794	38.9	1,129	17.1
8462-99-1050	11,331	72.3										
8479-89-9092	11,213	15.2	8,959	22.2	10,893	15.2	0	0			0	0
8417-80-9000	11,157	74.9										
8479-89-2071	11,110	94.1										
8463-10-0000	11,102	73.3	1,345	65.2	478	15.6	70	16.1	1,190	81.7	314	36
8458-91-0000	11,030	27.9							3,288	40.9	931	3.2
8413-91-9000	10,794	20.6										
8477-20-2000	10,787	24.3	15,097	41.8	13,085	35.9	5,394	24.7	13,614	31.7	9,615	35.9
8448-20-1000	10,514	94.0										
8445-40-9000	10,199	68.5	1,218	2.5	372	6.3	3,041	28.7	9,728	53.5	3,487	34.3

(出所)表2-1と同じ。

った。1億ドルを超える品目は8品目であり、8473-30-9000（第8471項の機械の部分品及び付属品（サウンドカード、モデムカード、ビデオカードなどを除く））は1品目で30億ドルを超え、8471-60-2023（液晶モニター）も1品目で18億ドルを超えている。この2品目で2004年のHS84輸出のほぼ50%になっている。1億ドルを超える8品目で全HS84輸出の3分の2である。

各品目の増加趨勢は急速である。8473-30-9000の場合、2004/1994年の倍率は73.8倍であり、2002年と比べても3.5倍である。8471-60-2023の場合は2000年比359倍、2002年比2.7倍である。8479-89-9099（847989（その他の機械（固有の機能を有するもの））の「その他」）の場合は2004/1994年が31.3倍、2002年比1.9倍となる。この他の品目でもその伸び率は著しい。

同時に注目されるべきは各品目の対中輸出の集中度である。ここで集中度というのは、ある品目の対中輸出金額が対世界輸出金額のうちどの程度の比率を占めるのか、ということである。相対的に見てどの品目においても対中集中度が上昇している、という事実がある。第1位の8473-30-9000の対中集中度は1994年には12.2%であったが、2002年から上昇し、同年に20.5%、2004年には50.6%と半分を超えた。第2位の8471-60-2023は1998年の0.1%からには27.4%、第3位の8479-89-9099は1994年にすでに17.6%であったが、2004年には56.3%である。第4位の8473-30-4060（DRAMモジュール）のように2004年でも6.5%にとどまっているものもあるが、第15位の447-11-1000（靴下織機）のように86.4%に達するもの、あるいは第12位の8407-34-9000（車両用ガソリンエンジン（1000ccを超えるもの）「その他」（乗用車用と思われる））のように2004年に輸出が始まるや否やその59.8%が対中輸出であったというケースもある。何が輸出されたか、は付論で見るように韓国企業の対中進出と大きく関係するであろうが、いずれにせよ、輸出が増大するということは機械設備の使用頻度が増加することであるから、品質の向上や価格面での競争力は上昇するものと思われる。この傾向

がいかにか維持されるのか、の観察が今後も必要であろう。

次に参考のため韓国の HS84 輸出と日本のそれとを比較しておく。表 7 は日韓の対中国 HS84 輸出の上位 30 を見たものである。韓国の場合、8473.30（第 8471 項の機械の部分品及び付属品）が圧倒的に大きいことは先に見た

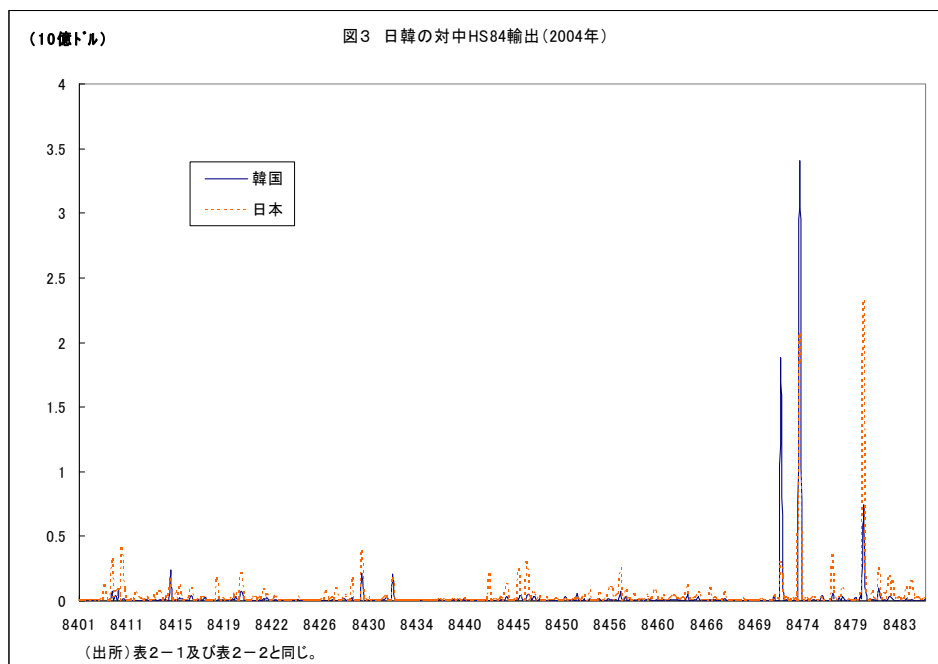
表 7 日韓の対中 HS84 輸出の比較(韓国基準 30 位まで、2004 年)

韓国順位	日本順位	HSコード	日本		
			韓国 (千ドル)	(千ドル)	(千円)
1	2	8473.3	3,404,033	2,071,297	224,300,748
2	9	8471.6	1,881,090	295,148	31,961,594
3	1	8479.89	739,558	2,322,114	251,461,674
4	16	8471.7	280,190	188,318	20,392,941
5	20	8414.3	236,122	171,397	18,560,617
6	4	8429.52	214,028	384,299	41,615,750
7	17	8431.49	204,695	185,051	20,039,171
8	6	8479.9	163,865	339,322	36,745,151
9	11	8480.71	100,781	256,985	27,828,893
10		8408.9	82,536	95,441	10,335,258
11	7	8407.34	73,528	332,253	35,979,700
12	10	8457.1	72,740	259,507	28,101,977
13	13	8419.89	70,418	223,833	24,238,924
14	5	8477.1	57,559	362,873	39,295,568
15		8451.8	57,297	26,177	2,834,663
16		8447.11	51,777	2,211	239,401
17	26	8462.99	50,072	121,896	13,200,087
18		8479.81	45,076	73,130	7,919,250
19		8475.9	42,948	11,662	1,262,932
20		8471.3	42,162	46,198	5,002,812
21	28	8415.9	41,554	110,415	11,956,841
22		8408.1	40,964	85,391	9,246,950
23	8	8446.3	39,949	307,671	33,317,645
24		8445.9	37,335	43,703	4,732,578
25	15	8481.8	35,976	198,508	21,496,436
26	30	8477.8	35,174	107,095	11,597,271
27		8431.41	34,073	782	84,664
28		8419.5	33,854	65,640	7,108,162
29		8447.9	33,645	45,568	4,934,530
30		8450.9	31,259	17,104	1,852,174

(出所) 表 2-1 及び表 2-2 と同じ。

とおりだが、金額的にも日本の1.6倍が輸出されている。同品目は日本の場合は2位である。韓国順位2位の8471.60（印刷装置および表示装置、入出力装置）は日本順位9位であり、金額で韓国は6倍以上を輸出している。韓国順位3位の8479.89（その他の機械（固有の機能を有するもの））は日本では1位であって金額的には日本が3倍程度を輸出している。韓国順位4位は8471.70（記憶装置（磁気ディスク、光ディスク、CD-ROM装置など））であって日本順位は16位である。韓国順位5位の8414.30（冷蔵用・冷凍用機器用の気体圧縮機）の場合、日本順位は20位である。総じて、韓国順位9位まではその順位に違いはあれ日本の場合にも30位までに登場するが（ただし、日本順位3⁹⁾、12、14位などは韓国の上位30に登場しない）、10位以下はかなり異なっている。21品目のうち日本順位30位までに登場しないものが12品目にも上る。韓国10位の8408.90（ピストン式圧縮点火内燃機関（ディーゼルエンジン、セミディーゼルエンジン））、15位の8451.80（繊維類その他の支持物にペーストを被覆する機械（リノリウムその他の床用敷物製造用のもの））、16位の8447.11（丸編機（シリンダーの直系が165mm以下のもの））、18位の8479.81（金属の処理用の機械（電線の巻線機を含む））、19位の8475.90（部分品（電球、電子管、せん光電球その他ガラス封入管組み立て機械又はガラス若しくはその製品の製造用若しくは熱間加工用の機械のもの））、20位の8471.30（携帯用の自動データ処理機（重量が10kg以下で少なくとも中央処理装置、キーボード及びディスプレイから成るもの））などは日本の30位までに登場しない。これらはその内容から見て中国への韓国企業の進出に伴う機械類であると思われる。

以上のように韓国の対中機械輸出は急拡大し、競争力を付けつつあると思われる。日本のそれと比較すると、まだ金額的には日本の半分強だが、その差は急速に縮まりつつある。しかし、その輸出品目の散らばり、という点からすると日本は広範な品目を中国に輸出しており、韓国は8471と8473に極めて集中していることが明らかである。それを示したものが図3である。その他では8414、8431にピークがみられるが、ピークは低いものの、日本が



HS84 全般にわたって輸出を行っているのと比較して構造的に違いがある。つまり、韓国の競争力は限られている、といえるであろう。

第4節 自給度の変化

本章の最後に韓国自身の自己評価として自給度の変化について瞥見しておこう。

表8は韓国機械工業会の『機械工業便覧1998年版』による1980年から97年のデータである。「機械産業」と「一般機械」という2分類の簡単なデータではあるが、この時期は既に見たように韓国の対中機械類輸出も対日のそれも急速に増加した期間であり、重要な期間である。

「機械産業」の生産は1980年の105.5億ドルから1997年の1202.2億ドルに11.4倍になり、輸入は40.5億ドルから327.8億ドルに増加した。8.1

表8 需給状況と自給率の変化

	(百万ドル、%)					
	1980	1985	1990	1995	1996	1997
機械産業						
生産	10,547	24,290	66,282	131,195	134,796	120,197
輸入	4,052	60,093	18,544	38,544	41,303	32,764
総需要	14,599	30,383	84,826	169,749	176,099	152,961
内需	12,267	25,629	73,770	137,621	143,664	121,397
輸出	2,332	4,754	44,056	32,128	31,564	*31,564
輸出比率	22.1	19.6	16.7	24.5	24.1	26.3
自給度	67	76.2	85	72	71.3	73
一般機械						
生産	1,382	3,434	17,160	40,103	43,493	38,267
輸入	2,154	3,168	10,568	20,399	22,382	16,230
総需要	3,536	6,602	27,728	6,502	65,774	54,497
内需	3,224	5,928	*255,253	52,313	56,663	45,435
輸出	312	674	2,475	8,189	9,112	9,062
輸出比率	22.6	19.6	14.4	20.4	21	23.7
自給度	33.2	46.6	58.2	61	60.7	64.3

(注)*は誤植と思われる。輸出比率から逆算すると31612百万ドルである。

(出所)韓国機械工業振興会『機械工業便覧』1998年版、46、47ページ。

倍である。内需は122.7億ドルから1214.0億ドルへと9.9倍になった。輸出は23.3億ドルから316.1億ドル⁽¹⁰⁾へと13.6倍になった。この動きから当然自給度は上昇し、同期間中に67.0%から73.0%へと6%上昇した。「一般機械」の場合は生産が同期間中に13.8億ドルから382.7億ドルへと27.7倍にもなり、輸入は21.5億ドルから162.3億ドルへと7.5倍になったにすぎなかった。一方、輸出は3.1億ドルから90.6億ドルへと30倍になった。当然、自給度は33.2%から64.3%へと画期的に上昇した。韓国の一般機械工業はこの期間中に急速に拡大し、また競争力を付けてきたと考えることができる。

その後の状況については韓国機械産業振興会の『機械産業貿易統計年報』2005年版が利用できる。それを示したものが表9だが、時期は1999年以降2004年までであって表8よりは詳しいデータが得られる。まず、造船を除外した機械産業全体では1999年の生産1030.5億ドルであり、経済危機の影響で1997年より減少している⁽¹¹⁾。しかし、危機後に急速に増加して2004年

表9 機械産業の需給(1999-2004)

(百万ドル、%)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004p
機械産業(造船除外)						
生産	103,047	129,135	123,055	141,237	161,101	184,203
輸入	23,607	31,153	26,638	30,924	37,914	49,105
総需要	126,654	160,288	149,693	172,161	199,014	233,307
内需	95,711	123,838	113,811	132,777	148,883	165,041
輸出	30,943	36,450	35,882	39,384	50,131	68,267
輸出比率	30	28.2	29.2	27.9	31.1	37.1
自給度	75.3	74.8	76.6	76.7	74.5	70.2
一般機械						
生産	27,638	37,515	34,609	39,567	46,767	53,441
輸入	9,865	13,611	10,812	12,061	15,118	19,301
総需要	37,503	51,125	45,420	51,627	61,886	72,742
内需	28,322	39,894	34,426	39,224	46,658	53,442
輸出	9,181	11,231	10,994	12,403	15,228	19,300
輸出比率	33.2	29.9	31.8	31.3	32.6	36.1
自給度	65.2	65.9	68.6	69.3	67.6	63.9
電気機械						
生産	15,879	19,100	17,491	19,379	21,821	24,583
輸入	4,929	6,129	5,684	6,720	8,693	11,850
総需要	20,809	25,229	23,175	26,099	30,515	36,433
内需	17,625	21,404	19,209	21,828	24,972	28,751
輸出	3,184	3,824	3,966	4,272	5,542	7,682
輸出比率	20	20	22.7	22	25.4	31.3
自給度	72	71.4	70.4	69.2	65.2	58.8
精密機械						
生産	3,730	4,540	4,074	5,269	4,797	5,073
輸入	4,555	6,536	5,535	6,134	7,791	10,283
総需要	8,284	11,076	9,609	10,403	12,589	15,356
内需	6,879	9,363	7,932	8,795	10,227	10,961
輸出	1,405	1,713	1,677	1,608	2,362	4,395
輸出比率	37.7	37.7	41.2	37.7	49.2	86.6
自給度	33.8	30.2	30.2	30.3	23.8	6.2
輸送機械						
生産	40,526	50,018	50,725	59,148	65,606	77,485
輸入	2,901	3,540	3,275	4,497	4,678	5,658
総需要	43,427	53,557	54,000	63,645	70,284	83,143
内需	29,303	37,067	37,744	45,695	46,430	50,061
輸出	14,124	16,491	16,256	17,950	23,854	33,082
輸出比率	34.9	33	32	30.3	36.4	42.7
自給度	90.1	90.5	91.3	90.2	89.9	88.7
金属製品						
生産	15,274	17,963	16,157	18,873	22,109	23,621
輸入	1,357	1,338	1,332	1,512	1,632	2,013
総需要	16,631	19,301	17,489	20,385	23,741	25,633
内需	13,581	16,110	14,500	17,234	20,596	21,826
輸出	3,050	3,191	2,989	3,151	3,146	3,807
輸出比率	20	17.8	18.5	16.7	14.2	16.1
自給度	90	91.7	90.8	91.2	92.1	90.8

(注)pは速報値。

(出所) 韓国機械産業振興会『機械産業貿易統計年報』2005年版。

には速報値ではあるが 1842.0 億ドルに回復した。約 1.8 倍である。一方、輸入は見かけ上 2.1 倍に増加した。しかし、1999 年が経済危機の回復途上であったことを勘案すれば、この倍率は若干割り引いて考えられる必要がある。輸出は 309.4 億ドルから 682.7 億ドルへと 2.2 倍に増加して輸出比率は増加したにもかかわらず、自給度は 2004 年には 70.2%にとどまった。

一般機械の場合も輸出比率は増加したが、輸入が 2003/2004 年にかなり増加したことによって自給度は機械産業全体より低い 63.9%にむしろ下がった。1999 年以降自給度がおよそ 60%後半であったことを考えれば、若干とはいえ自給度は低下している。電気機械の場合は生産が期間中に 1.5 倍であったのに対して輸入は 2.4 倍となり、輸出も増えたとはいえ自給度は 1999 年以降低下が続き、2004 年には 60%を割っている。精密機械は特異な構造を示している。生産は期間中に 1.4 倍にしか増加しなかったのに対して輸入は 2.3 倍になった。国内生産が 5073 百万ドルであるのに対して輸出は 4395 百万ドルであり、輸出比率は 86.6%にも達し、国内生産のほとんどを輸出に回し、内需のほとんどを輸入品によってまかなう、という構造にある。したがって、2004 年の場合の自給率はわずかに 6.2%である。もっともこれは 2004 年の特異ケースかもしれないが、しかし自給度はむしろ低下傾向にあることは数値を見る限り否定できない。輸送機械は韓国の強い分野であり、生産は同期間中に 1.9 倍に増え、内需は 1.7 倍、輸出は 2.3 倍となった。輸出比率は 40%を超え、自給度も 90%前後と高い数値である。金属製品の輸出比率は 16.1%と低いが、内需のほとんどは国内生産でまかなわれており、したがって自給度は 90%を超えている。

以上で見たように、輸送機械、金属製品では自給度は高く、かつ安定しているが、一般機械、電気機械、精密機械では自給度が低下する傾向がある。ことに金額的には小さいが、精密機械の場合は特異とも言える需給構造を示しているが、これが経済危機から回復し、旺盛な設備投資が復活した際の特異現象なのか、あるいは今後も継続するのかは注意深く観察を続ける必要がある。

おわりに

韓国の機械産業の競争力がいかなる状況にあるのかを、貿易統計を使って観察・分析することが本稿の課題であった。そのため、本稿では貿易統計のHS84に限り、日韓、韓中の貿易関係を観察してきた。その結果、大きく言って韓国のHS84の輸出は対中では1990年代、2000年前半を通して一貫して大幅に増加し、対日では1990年代は大幅増、2000年代前半は停滞、といった状況であった。注目される対中輸出の場合は量的に拡大すると同時に、対中輸出への集中度が急速に高くなっていることが確かめられた。このことは韓国の機械産業が少なくとも対中に関しては強い競争力を維持していると見て間違いはないだろう。ただし、その強い競争力はHS84の中でも非常に偏った商品群に集中しており、日本が韓国の強い分野と競合しながらも幅広い品目を対中輸出していることと比較すれば、同じ対中貿易といっても韓国と日本の間には構造的な違いがあるように見られる。しかし、日本に対しては8480や8479、8431などが増加傾向であり、部分品の輸出が増加傾向にあるという望ましい傾向が読み取れるものの、金額的には停滞気味であり、全体として2000年代に入っても競争力が強化された、とは言いがたい。これを明らかにするためには価格関係の分析や商品の交替などについての一層精密な研究が必要である。

付論 韓国企業の対中進出

表10は韓国の対中直接投資件数と金額を業種別に見たものである。まず件数をみると、それは1992年に100件を超え、その後も急速な増加が続いた。1997年の経済危機以前の最多は1994年の702件であり、危機の1998年には223件と急減したが、危機後は再び急速に回復し、2002年に1000件

表10 韓国製造業の業種別対中直接投資(実績ベース)

		(単位:件,千ドル)																		
		1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	合計
飲食料品	件数		1	2	4	9	21	67	61	66	38	12	34	50	62	70	79	128	122	824
	金額		3,000	1,262	1,959	3,209	7,922	25,969	56,338	48,063	18,934	7,391	9,602	13,901	37,980	31,620	39,649	93,552	135,379	535,730
繊維衣料	件数		1	4	14	47	105	194	133	128	116	66	100	129	144	198	224	245	277	2,125
	金額		400	2,615	5,891	34,858	83,610	104,302	123,723	120,603	65,872	30,981	16,489	28,908	90,845	84,994	134,434	249,413	191,535	1,369,473
靴・家畜	件数			3	7	10	33	45	44	47	27	12	35	57	85	65	55	70	60	655
	金額			1,839	8,566	11,819	21,811	33,879	46,190	26,692	11,037	8,621	22,338	24,840	26,984	26,654	36,138	38,489	74,478	420,375
木材家具	件数		1	1	2	5	13	34	38	40	27	11	13	19	29	36	41	37	46	393
	金額		60	30	257	901	2,355	11,290	12,431	13,323	6,824	1,741	4,288	3,386	5,618	5,292	6,394	12,009	14,739	100,938
紙・印刷	件数					5	3	17	18	15	16	5	8	11	20	20	22	30	24	214
	金額					2,270	640	6,685	3,909	23,044	16,673	7,439	1,256	7,921	3,477	6,561	13,893	34,683	13,933	142,384
石油化学	件数			2		4	32	61	65	57	48	19	24	54	85	104	121	144	149	969
	金額			3,014	3,086	2,207	12,833	29,736	64,801	81,162	65,405	51,888	51,027	63,221	81,019	90,101	220,829	233,354	195,221	1,248,704
非金属鉱物	件数		1	2	2	8	13	36	41	26	21	10	16	17	20	26	34	48	41	362
	金額		1,000	1,165	642	5,245	7,110	77,348	93,170	22,114	10,216	9,598	15,774	174,821	21,586	21,580	74,386	78,475	87,567	701,797
一次金属	件数				1	3	8	15	17	14	21	3	5	17	16	22	34	36	33	245
	金額				400	532	2,708	8,418	22,541	21,428	100,291	19,047	8,035	3,626	16,627	75,661	150,084	160,589	218,403	808,390
組立金属	件数				1	10	13	33	31	35	34	8	20	24	37	63	69	70	63	511
	金額				37	9,264	6,856	18,147	13,183	17,510	9,993	4,775	6,826	15,838	18,648	36,756	79,332	83,487	57,754	378,406
機械設備	件数	1	1		4	10	27	45	50	60	73	21	40	50	101	115	165	224	219	1,206
	金額	10	1,000		1,115	4,156	45,229	36,676	57,166	46,663	34,322	22,315	19,959	23,482	51,240	86,383	157,069	226,027	156,908	969,720
電子通信装置	件数		1	2	6	14	24	58	67	55	59	23	30	90	138	230	258	269	218	1,542
	金額		450	1,670	5,037	15,930	25,945	145,525	134,282	196,201	66,026	296,786	102,478	143,191	181,623	220,410	308,025	512,238	467,723	2,823,540
輸送機械	件数			1	1	3	11	22	24	28	17	4	11	29	32	68	100	122	104	577
	金額			49	3,587	6,318	10,227	29,612	49,894	61,911	58,515	129,186	16,527	8,317	17,285	173,101	180,735	238,537	426,896	1,410,697
その他	件数		1	5	21	32	53	75	61	71	51	29	76	131	134	163	193	259	171	1,526
	金額		450	3,830	10,646	20,617	25,721	55,753	29,002	50,792	18,085	12,806	13,847	31,300	37,302	47,265	68,984	100,792	102,238	629,430
合計	件数	1	7	22	63	160	356	702	650	642	548	223	412	678	903	1,180	1,395	1,680	1,527	11,149
	金額	10	6,360	15,474	41,223	117,326	252,767	583,340	706,630	729,506	482,193	602,574	288,446	542,752	590,234	906,378	1,469,952	2,061,645	2,142,774	11,539,584

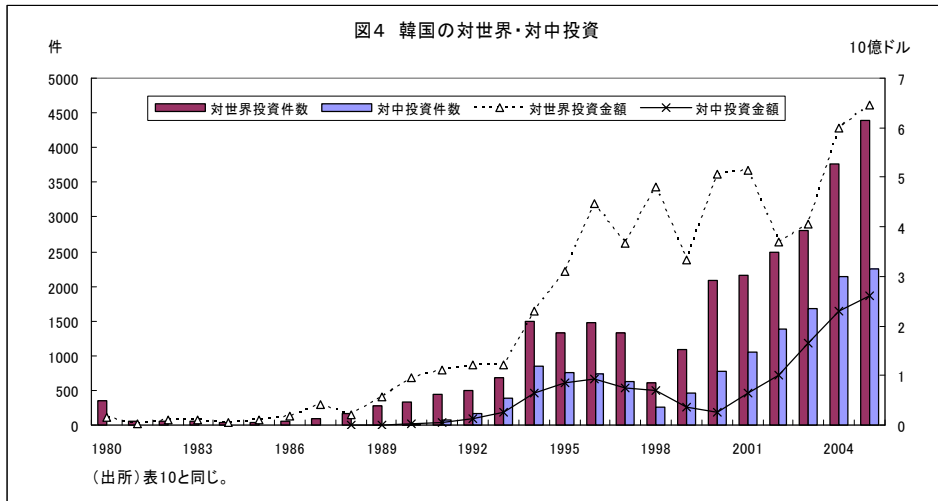
(出所)韓国輸出入銀行海外投資統計(<http://www.koreaexim.go.kr/kr/oeis/m03/s01.jsp>).

を超え、2004年には1680件を記録した。1988年から2005年までの合計では1万1149件が対中進出を果たした⁽¹²⁾。業種別では「繊維衣料」の2125件がもっとも多く、かつ長期間にわたって安定的に投資件数が推移した。「電子通信設備」が2番目に多く1542件だが、投資件数が急増するのは2000年代に入ってからである。3番目は、「その他」を除けば「機械設備」であり、これも2000年以降に増加したが、「電子通信設備」よりは早い時期から投資が始まっている。その他、「石油化学」(969件)や「飲食料品」(824件)、「靴・家畜」(655件)も相当のレベルに達している。「その他」が相当数に達しているのはバッグ、アクセサリなどがここに含まれるからであろう。総じていえば、対中投資は軽工業から始まり、電子工業あるいは重工業へと展開したと見ることができる。

金額的にはどうか。1988年以降の対中投資は115.4億ドルに達しているが、年度別に見れば、1992年には1億ドルを超え、経済危機以前では1996年に7.3億ドルを超えた。1999年には激減したが、2000年からは回復し、2004年に20.6億ドル、2005年には21.4億ドルに達した。業種別では件数とは異なり、「電子通信設備」が最も多く28.2億ドルと全体のおよそ4分の1を占める。二番目は「輸送機械」の14.1億ドル、三番目に件数では最も多い「繊維衣料」が13.7億ドルで続き、4番目が「石油化学」(12.5億ドル)である。

「機械設備」も10億ドル近い。件数同様、「電子通信設備」は2003年以降の急増が著しく、「輸送機械」も同様に2002年から急増する。これに対して「繊維衣料」は比較的安定的な投資が続いている。ことに2002年以降の投資金額の急増は注目に値する。

以上のような状況の下で、韓国の対外直接投資に占める中国の比重は急速に重くなりつつある。それを見たものが図4である。対中直接投資は上で見たように1992年(韓中国交正常化の年)から増加し始めた。しかし、この年の対中投資件数はまだ全体件数の3分の1程度であったが、翌年にはその比率は55%となり、それ以降も対世界投資の半分以上を占めている。金額的には件数ほどの比率ではないが、それでも40%程度を占めるようになってい



る（2005年）。韓国企業の中国への傾斜はいつそう進んでいる、ということができる。

最後に表11を参考のために掲げておく。これは韓国企業がどのような商品を中国で生産を始めたのかを「組立金属」に限って年別に見たものである。資料は対外経済政策研究院『海外進出企業総覧』2006年版である。上で検討した韓国の対中HS84輸出と関連が深いことが理解されるであろう。

表11 組立金属の対中進出

1991年以前	1992	1993	1994	1995	1996	1997
大型機械 紡績機械 自動車オーディオ部品 音響機器 掛け時計 コンペア・ベルト ボイラー	医療機器 機械組立 高圧容器、金属加工 コンテナ スイッチ スイッチ 厨房用品 電線、ケーブル パイプ パイプピッチング 変圧器 変圧器	亜鉛リード エレベーター、エスカレーター 音響製品 カメラ、関連部品 掘削装備 コア コンテナ、自動車部品 ジッパー 自動車部品、機械加工 射出、印刷 成型、電子部品、プレス 成形射出組立 ダイヤモンド工具 鑄造 テント用スチールロープ バス ボイラー 油圧ブレイカー、クレーン 油圧ブレイカー、クレーン	押し出し製品 音響機器 各種大型バス 掘削機など 小型変圧器部品 コンピューターケーブル、ハーネス 産業プラント 自動車オーディオ 自動車用スピーカー 消防器材 ステンレス保温瓶 繊維印刷機械、インク タイマー 蓄電器 厨房機器 時計部品 バルブ プレス部品 ボイラー 冷延鋼板加工	steel wire rope 亜鉛鍍金鋼板 鋳物 エレベーター 音響機器 機械部品 銀行関係事務機器 金属工芸品 計量器 小型コイル 裁断盤 射出金型 スイッチ ステンレス厨房容器 洗濯機部品 船舶用機資材 蓄電池 通信交換台、公衆電話機 バルブ プレス、金属加工 プレス、射出製品 プレス金型 ベル 変圧器 変圧器 冶金材料 有圧タンク 冷却器	エレベーター 大型エンジン部品 音響設備 金型、機械部品 金型加工 機械 機械？ 機械部品 金属管 掘削機、工作機械など 高圧トランス、ノイズフィルタ 小型電動機 コネクター 自動車部品(ブレーキ) 射出品 射出品、プレス品 シャフト 重装備部品 スクリーン印刷、機械部品 スチールコード 蓄電器 鉄関連製品 鉄砂 時計 ボイラー ボイラー ボイラー、暖房用品 ボトル、家電製品 ポンプ、鋳物 木工機械 リレー、警報機 ワイヤハーネス	PCVバルブ 亜鉛鍍金鉄線 医療器 大型冷蔵庫、圧縮機部品 カラー鋼板、鍍金鋼板 機械 機械 機械、自動車部品 金属加工 掘削機部品 高級音響機器 鋼材加工 コンペア、塗装設備 ジッパー 自動車部品 自動車部品 自動車部品、電子部品 自動車用パッド 重電気、ボックス包装 消防施設 食品機械 鑄造 厨房用品(保温瓶) 厨房用品、生活用品 鉄鋼圧延工場 鉄製パネル 鍍金鋼板 ハーネス、コネクター組立 プレス加工 ベアリング 変圧器 変圧器、携帯用電池 縫製機械 ポンプ ポンプ、家電製品 モーター モーター 冷凍設備

表11 組立金属の対中進出(続き)

1998	1999	2000	2001	2002	2003
エンジン部品 金型製造 空調機部品 裁縫機 シャフト、電子部品 浄水器 時計、時計部品	環境設備 機械、機械部品 現金自動支払機、特装プラント 工作機械 コンベア 浄水器 水晶発信器 スクリュー、シャフト 専用機 鍍金 時計 農業機械、熱風機 ハーネス 変圧器、電子部品 マグネット ワイヤハーネス	ABS 圧縮機部品 音響機器 加熱板 カメラ、携帯 機械 機械 金属塗装 ケーブル 高圧機器(シリンダー、バルブ) 工業用裁縫機 産業蓄電池 酸素切断機、加熱機 自動食品機械 スイッチ ステンレス加工 清掃機 船舶部品 鑄造製品 厨房用品 電力用電線 時計 排水処理機械 配電盤スイッチ パイプ バルブ ファクシミリ、プリンター用電源 ファックス、プリンター用電源 プレス部品 ボイラー、オンドルパイプ 包装機械 水処理設備	押し出し製品 金型 機械設備 機械部品 金属 金属 空調コンプレッサー部品加工 計算機用電線、電纜 携帯電話バッテリーパック 小型家電製品 小型変圧器 小型変圧器 裁縫機 産業用ロボット開発 自動車部品、空気調整装置 射出、圧出製品 射出品、電子部品 浄水器、環境機器 水道コック スチールパイプ 成形射出機、射出部品 切断、溶接設備 掃除機パイプ タイマースイッチ、モーター 厨房用品 超音波清浄機 鉄型 鉄管および電子部品 鍍金 熱処理、プレス 農業機械 部品 プレス 変圧器、連結線 マグネット ラジエーター	オイルス・ベアリング 音響機器 カメラ用部品 環境設備 機械 機械製造 自動車、設備製造 金属加工 金属製品 空気清浄機 掘削機、機械車 掘削機部品 小型機電 小型変圧器、コイル 産業用キャスト 自動車部品 自動車部品 自動車用電動機 車体部品 車両用エアコン 電子用コード 電池 荷役機械? 熱処理 ハーネス バス部品 バルブ 部品加工 ベルトグリップ 変圧器 縫製設備 マグネット	一回用注射器製造設備 機械設備 金属製品 ケーブル、ハーネス コネクター、電源ケーブル 産業用フィルター 自動車部品 自動車部品 ステンレス・ワイヤー 成形品 ダイヤモンド工具 電線-エナメルワイヤー 縫製機械

(出所) 対外経済政策研究院『海外進出企業総覧』2006年版より作成。

〔注〕

- (1) 韓国自動車産業の近年の高度化と発展に関してはこの研究会の共同研究者である金泰吉の研究報告に大きな示唆を受けた。感謝したい。
- (2) 「韓国工業競争力」研究会における筆者の報告（2006年12月22日）に対する安倍誠のコメントによる。
- (3) 詳しくは服部〔2007〕を参照されたい。
- (4) ここでは1992、95、2000、04の4時点を取ることにする。その理由は『韓国貿易年報』においては中国が独立して記載されたのが1992年に国交が正常化されて以降だからである。
- (5) ここで「機械類」としているのは1965年から94年までは「機械」と一括された数値であり、1995年以降は「一般機械」「電気機器」「輸送用機器」「精密機器」を合計したものである。
- (6) 輸入の場合、資料の項目は「機械機器」で一貫している。
- (7) それぞれのHSコードの品目内容は別表1を参照。
- (8) 各品目の詳細な競争力の状況を分析すべきだが、大きく紙幅を超えるので、別の機会に譲らざるを得ない。
- (9) 日本20位までで韓国順位20位までに登場しないものは、日本3位は8409.91（ピストン式火花点火内燃機関の部分品）、12位は8445.40（糸巻機及びかせ機）、14位は8443.19（オフセット印刷機）、18位8418.61（冷蔵用及び冷凍用の機器及びヒートポンプ）、19位8428.90（持ち上げ用、荷扱い用、積み込み用又は荷おろし用機械）である。
- (10) 表9では31564百万ドルとなっているが、これはミスプリントであると思われる。輸出比率から逆算すると31612百万ドルである。
- (11) ただし、このデータはドル表示であり、1999年のドルとウォンの交換比率は1997年より下がっているためにウォン表示ではほぼ1997年と同じレベルにあったと見ることができる。
- (12) この韓国輸出入銀行のデータでは清算が表示されていないため、この数値は生産件数を差し引いたものであるかどうかは不明である。生産件数を差し引いていないとすれば、件数合計は少し少なくなっている可能性もある。金額についても同様である。

〔参考文献〕

奥田聡〔2006〕「緊密化する韓中貿易・投資の現状と課題」（『えーじえつくればーと』Vol.42、2006年12月

- 服部民夫 [2001] 「技術・技能節約的發展の特異性」(松本・服部編『韓国經濟の解剖』文眞堂)
- [2003] 「東アジアにおける組立型工業化と技術蓄積」(村松・恒川編『日本の政治經濟とアジア諸国(下巻)』国際日本文化研究センター)
- [2007] 「東アジアの經濟發展と日本—組立型工業化と貿易關係」東京大学出版会。
- 服部民夫編 [1987] 『韓国の工業化—發展の構図—』アジア經濟研究所。
- 吉岡英美 [2006] 「韓国半導体産業の技術發展—三星電子の要素技術開發の事例を通じて」『アジア經濟』Vol.47, No.3, 2006年3月。

[資料]

〈日本〉

日本關稅協會『貿易統計月報』各年12月号

——『外國貿易概況』各年版。

財務省貿易統計ホームページ

<http://www.customs.go.jp/toukei/info/index.htm>

〈韓国〉

關稅庁『貿易統計年報』各年版。

産業銀行『部品・素材産業動向』各号。

産業資源部『部品・素材産業貿易統計年報』2005、2006年版。

韓国機械工業振興會・機械共濟組合『機械産業貿易統計年報』2005年版。

付表1 HS2桁コード品目表

コード	品目
00	機用品・再輸出入品
01	動物(生きているものに限る。)
02	肉及び食用のくす肉
03	魚並びに甲殻類、軟体動物及びその他の水棲無脊椎動物
04	酪農品、鳥卵、天然はちみつ及び他の類に該当しない食用の動物性生産品
05	動物性生産品(他の類に該当するものを除く。)
06	生きている樹木その他の植物及びびりん茎、根並びに切花及び装飾用の葉
07	食用の野菜、根及び塊茎
08	食用の果実及びナット、かんきつ類の果皮並びにメロンの皮
09	コーヒー、茶、マテ及び香辛料
10	穀物
11	穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉、イヌリン及び小麦グルテン
12	採油用の種及び果実、各種の種及び果実、工業用又は医薬用の植物、わら、飼料用植物
13	ラック並びにガム、樹脂その他の植物性の液汁及びエキス
14	植物性の組物材料及び他の類に該当しない植物性生産品
15	動物性又は植物性の油脂及びその分解生産物、調製食用脂並びに動物性又は植物性のろう
16	肉、魚又は甲殻類、軟体動物若しくはその他の水棲無脊椎動物の調製品
17	糖類及び砂糖菓子
18	ココア及びその調製品
19	穀物、穀粉、でん粉又はミルクの調製品及びベーカリー製品
20	野菜、果実、ナットその他植物の部分の調製品
21	各種の調製食料品
22	飲料、アルコール及び食酢
23	食品工業において生ずる残留物及びくず並びに調製飼料
24	たばこ及び製造たばこ代用品
25	塩、硫黄、土石類、プラストー、石灰及びセメント
26	鉱石、スラグ及び灰
27	鉱物性燃料及び鉱物油並びにこれらの蒸留物、歴青物質並びに鉱物性ろう
28	無機化学品及び貴金属、希土類金属、放射性元素又は同位元素の無機又は有機の化合物
29	有機化学品
30	医療用品
31	肥料
32	なめしエキス、染色エキス、タンニン、染料、顔料その他着色料、ペイント、インキ等
33	精油、レジノイド、調製香料及び化粧品類
34	石けん、有機界面活性剤、洗剤、調製潤滑剤、人造・調製ろう、磨き剤、ろうそく、菌科用調製品等
35	たんぱく系物質、変性でん粉、膠着剤及び酵素
36	火薬類、火工品、マッチ、発火性合金及び調製燃料
37	写真用又は映画用の材料
38	各種の化学工業生産品
39	プラスチック及びその製品
40	ゴム及びその製品
41	原皮(毛皮を除く。)及び革
42	革製品及び動物用装着具並びに旅行用具、ハンドバッグ、腸の製品
43	毛皮及び人造毛皮並びにこれらの製品
44	木材及びその製品並びに木炭
45	コルク及びその製品
46	わら、エスバルトその他の組物材料の製品並びにかご細工物及び枝条細工物
47	木材パルプ、繊維素繊維を原料とするその他のパルプ及び古紙
48	紙及び板紙並びに製紙用パルプ、紙又は板紙の製品
49	印刷した書籍、新聞、絵画その他の印刷物並びに手書き文書、タイプ文書、設計図及び図案
50	絹及び絹織物

付表1 HS2桁コード品目表(続き)

コード	品目
51	羊毛、織獣毛、粗獣毛及び馬毛の糸並びにこれらの織物
52	絹及び絹織物
53	その他の植物性紡織用繊維及びその織物並びに紙糸及びその織物
54	人造繊維の長繊維並びに人造繊維の織物及びストリップその他これに類する人造繊維製品
55	人造繊維の短繊維及びその織物
56	ウオーディング、フェルト、不織布及び特殊糸並びにひも、綱及びケーブル並びにこれらの製品
57	じゆうたんその他の紡織用繊維の床用敷物第57類 じゆうたんその他の紡織用繊維の床用敷物
58	特殊織物、タフテッド織物類、レース、つづれ織物、トリミング及びじゆう布
59	染み込ませ、塗布し、被覆し又は積層した紡織用繊維の織物類及び工業用の紡織用繊維製品
60	メリヤス編物及びクロセ編物
61	衣類及び衣類附属品(メリヤス編み又はクロセ編みのものに限る。)
62	衣類及び衣類附属品(メリヤス編み又はクロセ編みのものを除く。)
63	紡織用繊維のその他の製品、セット、中古の衣類、紡織用繊維の中古の物品及びほろ
64	履物及びゲートルその他これに類する物品並びにこれらの部分品
65	帽子及びその部分品
66	傘、つえ、シートステッキ及びむち並びにこれらの部分品
67	調製羽毛、羽毛製品、造花及び人髪製品
68	石、プラスチック、セメント、石綿、雲母、その他これに類する製品
69	陶磁製品
70	ガラス及びその製品
71	天然又は養殖の真珠、貴石、半貴石、貴金属等、身辺用模造細貨類並びに貨幣
72	鉄鋼
73	鉄鋼製品
74	銅及びその製品
75	ニッケル及びその製品
76	アルミニウム及びその製品
77	(欠番)
78	鉛及びその製品
79	亜鉛及びその製品
80	すず及びその製品
81	その他の単金属及びサーメット並びにこれらの製品
82	単金属製の工具、道具、刃物、スプーン及びフォーク並びにこれらの部分品
83	各種の単金属製品
84	原子炉、ボイラー及び機械類並びにこれらの部分品
85	電気機器及びその部分品並びに録音機、音声再生機並びにテレビジョンの映像機器
86	鉄道・軌道用の機関車及び車両、線路用装備品、機械式交通信号用機器(部分品含む)
87	鉄道用及び軌道用以外の車両並びにその部分品及び附属品
88	航空機及び宇宙飛行体並びにこれらの部分品
89	船舶及び浮き構造物
90	光学・写真用・映画用・測定・検査・精密及び医療用機器並びにこれらの部分品及び附属品
91	時計及びその部分品
92	楽器並びにその部分品及び附属品
93	武器及び銃砲弾並びにこれらの部分品及び附属品
94	家具、寝具、マットレス、マットレスサポート、クッション、並びにランプその他の照明器具等
95	がん具、遊戯用具及び運動用具並びにこれらの部分品及び附属品
96	雑品
97	美術品、収集品及び骨董

(注)紙幅の関係により説明を簡略化している。

(出所)財務省貿易統計データホームページ。

付表2 HS4桁コード品目表 (HS84のみ)

番号	品名
8401	原子炉、原子炉用核燃料要素及び同位体分離用機器
8402	蒸気発生ボイラー及び過熱水ボイラー
8403	セントラルヒーティング用ボイラー
8404	ボイラー用補助機器及び蒸気原動機用復水器
8405	発生炉ガス発生機、水性ガス発生機及びアセチレンガス発生機その他これに類する湿式ガス発生機
8406	蒸気タービン
8407	ピストン式火花点火内燃機関(往復動機関及びロータリーエンジンに限る)
8408	ピストン式圧縮点火内燃機関(ディーゼルエンジン及びセミディーゼルエンジン)
8409	8407又は8408のエンジンの部分品
8410	液体タービン及び水車並びにこれらの調速機
8411	ターボジェット、ターボプロペラその他のガスタービン
8412	その他の原動機
8413	液体ポンプ及び液体エレベーター
8414	気体ポンプ、真空ポンプ、気体圧縮機及びファン並びに換気用又は循環用のフード
8415	エアコンディショナー
8416	炉用バーナー及びメカニカルストーカー
8417	炉(焼却炉を含み、工業用又は理化学用のもの、電気炉を除く。)
8418	冷蔵庫、冷凍庫その他の冷蔵用又は冷凍用の機器及びヒートポンプ
8419	加熱、調理、ばい蒸、蒸留、精留、滅菌、殺菌、蒸気加熱、乾燥、蒸発、凝縮、冷却その他温度変化により材料を処理
8420	カレンダーその他のロール機(金属用又はガラス用のものを除く。)及びこれらのシリンダー
8421	遠心分離機(遠心式脱水機を含む。)並びに液体又は気体のろ過機及び清浄機
8422	皿洗機、清浄用又は乾燥用の機械、充てん用、封口用、封止用又はラベル張付け用の機械等
8423	重量測定機器及び分銅
8424	噴射用、散布用又は噴霧用の機器、消火器、スプレーガンその他これに類する機器及び蒸気又は砂の吹付け機その他これに類する噴射用機器
8425	ブリータックル、ホイスト、ウインチ、キャブスタン及びジャッキ
8426	デリック、クレーン、移動式リフティングフレーム、ストラッドルキャリアー及びクレーンを装備した作業トラック
8427	フォークリフトトラック及び持ち上げ用又は荷扱い用の機器を装備したその他の作業トラック
8428	その他の持ち上げ用、荷扱い用、積み込み用又は荷卸し用の機械(例えば、昇降機、エスカレーター、コンベヤ及びロープ
8429	ブルドーザー、アングルドーザー、地ならし機、スクレーパー、メカニカルショベル、エキスカベーター、ショベルローダー、突固め用機械及びロードローラー
8430	その他の移動用、地ならし用、削り用、掘削用、突固め用、採掘用又はせん孔用の機械並びにくい打ち機、くい抜き機及び除雪機
8431	第84.25項から第84.30項までの機械に専ら又は主として使用する部分品
8432	農業用、園芸用又は林業用の機械(整地用又は耕作用のものに限る。)及び芝生用又は運動場用のローラー
8433	収穫機及び脱穀機、草刈機並びに卵、果実その他の農産物の清浄用、分類用又は格付け用の機械
8434	搾乳機及び酪農機械
8435	プレス、破砕機その他これらに類する機械(ぶどう酒、りんご酒、果汁その他これらに類する飲料の製造用のものに限
8436	その他の農業用、園芸用、林業用、家きん飼育用又は養蜂用の機械並びに家きんのふ卵器及び育すう器
8437	種、穀物又は乾燥した豆の清浄用、分類用又は格付け用の機械並びに製粉業用の機械及び穀物又は乾燥した豆の
8438	飲食料品の調製業用又は製造業用の機械
8439	繊維業繊維を原料とするバルブの製造機械及び紙又は板紙の製造用又は仕上げ用の機械
8440	製本用機械(製本ミシンを含む。)
8441	その他の製紙用バルブ、紙又は板紙の加工機械(切断機を含む。)
8442	印刷用コンポーネントの調製用又は製造用の機器、プレート、シリンダーその他の印刷用コンポーネント
8443	印刷機、その他のプリンター、複写機及びファクシミリ並びに部分品及び付属品
8444	人造繊維用の紡糸機、延伸機、テクスチャー度加工機
8445	紡績準備機械並びに精紡機、合系機、ねん糸機、かせ機、糸巻機及び8446又は8447の機械に使用する紡織用繊維の糸を準備する機械

付表2 HS4桁コード品目表 (HS84のみ) (続き)

番号	品名
8446	織機
8447	編機、ステッチボンディングマシン、タフティング用機械及びジンブヤーン、チュール、レース、ししゅう布、トリミング、組ひも又は網の製造機械
8448	8444から8447までの補助機械又は部分品及び附属品
8449	フェルト又は不織布用機械
8450	家庭用又は営業用の洗濯機
8451	ドライクリーニング機、乾燥機、アイロンがけ用機械用プレス、洗浄・染色・漂白用機械、織物類の巻取り・巻戻し・折畳み・切断又はピンキング用機械
8452	ミシン、ミシン針並びにミシン用に特に設計した家具、台及びカバー
8453	原皮、毛皮又は革の前処理用機械、なめし用機械及び加工機械並びに毛皮製又は革製の履物その他製品の製造・
8454	転炉、取鍋、インゴット用鑄型及び鑄造機
8455	金属圧延機及びそのロール
8456	レーザー、超音波、放電機械
8457	金属加工用のマシニングセンター、ユニットコンストラクションマシン及びマルメステーショントランスファーマシン
8458	旋盤(ターニングセンターを含む)
8459	金属用のボール盤、中ぐり盤、フライス盤、ねじ切り盤及びねじ立て盤
8460	研削盤、ホーニング盤、ラップ盤、研磨盤その他の仕上げ用加工機械
8461	平削り盤、形削り盤、立削り盤、フローチ盤、歯切り盤、歯車研削盤、歯車仕上盤、金切り盤、切断機その他の加工機
8462	鍛造機、ハンマー、ダイスタンピングマシン、ベンディングマシン、フォールディングマシン、ストレートニングマシン、フラットニングマシン、剪断機、パンチングマシン及びノッチングマシン並びにその他のプレス
8463	その他の加工機械(金属又はサメットの加工用のもので、これらを取り除くことなく加工するものに限る。)
8464	石、陶磁器、コンクリート、石綿セメントその他これらに類する鉱物性材料の加工機械及びガラスの冷間加工機械
8465	木材、コルク、骨、硬質ゴム、硬質プラスチックその他これらに類する硬質物の加工機械
8466	8456から8465までの機械の部分品及び附属品並びに手持工具用ツールホルダー
8467	手持工具
8468	はんだ付け用、ろう付け用又は溶接用の機器及びガス式の表面熱処理用機器
8469	タイプライター及びワードプロセッサ
8470	計算機並びにデータを記録し、再生し、及び表示するポケットサイズの機械並びに会計機、郵便料金計機、切符発行機、金銭登録機
8471	自動データ処理機械及びこれを構成するユニット並びに磁気式又は光学式の読取機、データ符号化・転記機械及びデータ処理機械
8472	その他の事務用機器
8473	8469から8472までの機械の部分品及び附属品
8474	選別機、ふるい分け機、分離機、洗浄機、破砕機、粉碎機、混合機及び捏和機、凝結機及び成形機並びに鑄物用砂
8475	電球、電子管、せん光電球その他のガラス封入管の組立て用機械及びガラス又はその製品の製造用又は熱間加工
8476	物品の自動販売機
8477	ゴム又はプラスチックの加工機械及びゴム又はプラスチックを材料とする物品の製造機械
8478	たばこの調製用又は製造用の機械
8479	機械類(固有の機能を有するものに限るものとし、この類の他の項に該当するものを除く。)
8480	金属鑄造用鑄型枠、鑄造用パターン及び金属、金属炭化物、ガラス、鉱物性材料、ゴム又はプラスチックの成形用の型
8481	コック、弁その他これらに類する物品
8482	玉軸受及びころ軸受
8483	ギヤボックスその他変速機、伝動軸、クランク、軸受箱、滑り軸受、歯車、歯車伝動機、ボールスクリュウ、ローラー・スクリュウ、はずみ車、プーリー、クラッチ等
8484	ガスケットその他これに類するジョイント、材質の異なるガスケットその他ジョイントをセットにし又は取りそろえて包装にしたもの及びメカニカルシール
8486	半導体ボール、半導体ウエハー、半導体デバイス、集積回路又はフラットパネルディスプレイの製造に専ら又は主として使用する機器
8487	機械類の部分品(接続子、絶縁体、コイル、接触子その他の電気用物品を有するもの及びこの類の他の項に該当するものを除く。)

(注)紙幅の関係により説明を省略している。

(出所)財務省貿易統計ホームページ。